

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	理工学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価 (就職先の評価、卒業生評価)
小項目	6.4.2 学位授与 (卒業・修了判定) は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策 (院) (専門)

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 社会に貢献できる研究者・技術者を育成するため、学生が学会や論文などで研究発表できるよう指導を行う。	→就職状況、研究成果の公表・特許の出願状況、日本学術振興会の特別研究員採用人数。	B	B	A	A	/
2. キャリアパスを学生に周知させる。	→キャリアセミナーの開催状況。	B	B	A	A	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2012年度は184件の査読付論文発表があり、97件の海外での学会発表がなされた。特許について21件の出願が行われた。日本学術振興会の海外特別研究員に1名が新規採用になっている。ホームページを公開している研究室は全研究室の81%である。就職率は92.1%であり、前年度(91.2%)より若干上昇し、かつ就職者の82.9%が研究開発・技術系、4.6%が理数系教員で占められており、両方で87.5%になる。この数値は大学院で学んだことがキャリア形成に活かされていることを示す。
目標2	学生のキャリアパス形成を周知させるために年間9回の理系向けキャリア形成プログラムに加え、6回の文系就職をサポートするキャリア形成プログラムも実施した。大学院の講義科目として2011年度から経営戦略研究科と共同で「研究開発型ベンチャー創成」を開講した。
備考	